

2025 年 10 月 1 日

**「AI 創薬プラットフォーム事業」の共同研究において、
患者に寄り添う医療のための
問診生成 AI および看護音声入力生成 AI の実運用を開始**

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所
地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪国際がんセンター
日本アイ・ビー・エム株式会社

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所（所在地：大阪府茨木市、理事長：中村祐輔、以下「[医薬基盤・健康・栄養研究所](#)」）、地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪国際がんセンター（所在地：大阪市中央区、総長：松浦成昭、以下「[大阪国際がんセンター](#)」）と日本アイ・ビー・エム株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：山口明夫、以下「[日本 IBM](#)」）は、本日、「[生成 AI を活用した患者還元型・臨床指向型の循環システム（AI 創薬プラットフォーム事業）](#)」の研究成果として、「問診生成 AI」及び「看護音声入力生成 AI」の開発が完了し、本年 9 月から実運用を開始したことを発表しました。AI 創薬プラットフォーム事業は 3 者が 2024 年 3 月から共同研究を進めている事業であり、[同年 8 月の「対話型疾患説明生成 AI」の実運用開始](#)に続く発表です。

がんの医療は着実に進歩しており、治療成績向上につながっています。中でも近年の薬物治療の進歩はめざましく、新薬が次々と開発され、がん患者の予後改善に大きく寄与しました。現在、薬物治療を受ける患者は、自宅で健康状態や体調を紙媒体の記録用紙に手書きで記録してから受診します。来院時も不足している情報について、医師・薬剤師・看護師から個別に質問されるため、同じ内容に対して繰り返し答える必要があることが患者にとって負担となっています。また、患者の情報が問診票や治療日誌など複数の媒体に分散していることで、医療従事者が必要な情報を活用することが難しい状況でもあります。

また、がん医療の高度化に伴い、様々な業務が増え、看護業務も激増しています。特に看護業務の中で記録に費やす時間が増えており、看護師一人あたり 1 日平均 94 分（勤務時間の約 20%）を記録作業に費やしていると報告されています¹。例えば、看護師が患者の問題や課題を共有し、議論する看護カンファレンスは、単なる情報共有の場にとどまらず、看護の質を高め、チームとしての連携を強化する重要な役割を担っています。さらに、カンファレンスでの議論が看護教育や看護師育成につながっています。しかし、議論の記録を残すことに時間を取られ、十分に議論に参加できなかったり、会議後に記録作業が残ったりするという課題がありました。看護師が患者からの電話に対応する電話サポートにおいても同様に、患者からの問い合わせに対応しながら紙のメモを取るため、会話に集中できないことや、終了後の記録作業が負担となっていました。記録作業に時間を取られることで患者に向き合う時間が減り、看護師の疲弊を招くことにもつながります。

これらの課題を受け、医薬基盤・健康・栄養研究所、大阪国際がんセンターおよび日本 IBM は、「患者に寄り添う医療」のための環境整備に向けて、「問診生成 AI」と「看護音声入力生成 AI」を開発し、本年 9 月から実運用を開始しました。

〈問診生成 AI について〉

問診生成 AI では、患者さんやそのご家族がスマートフォンやタブレット、PC といった自身が所有するデバイスで、人工知能（AI）アバターとのチャットを通じて、日々の体調を簡単に入力できます。音声入力にも対応しているので、副作用の影響で文字入力が困難な場合でも記録が可能です。さらに、生成 AI による会話形式の問診によって、規定項目に加え、患者さんに過度な負担をかけることなく、体調不良時の状況や規定項目以外の症状についても引き出すことができます。患者さんによって確認された入力内容はシームレスに電子カルテ端末で参照でき、グラフ表示や週ごとのサマリー、前週との比較といった機能で整理されるため、医療従事者は一元化された情報として確認できます。本ソリューションは、構築にあたって、医師・看護師・薬剤

師と十分な議論を重ねたことにより、がん化学療法の現場で役立つ実践的な問診が可能となっています。また、問診生成 AI を通じて、大阪国際がんセンターの全ての患者さんを対象に、これまで紙媒体で運用されていた初診時の問診票を電子化し、電子カルテに連携する取り組みも実施しています。



本ソリューションの導入により、医療従事者が診察時の症状ヒアリングに要する時間を従来の最大 25% まで軽減し、より深い対話や治療方針の検討に充てることを目指します。これにより、患者さんと医療従事者双方にとって質の高い医療体験の提供が期待されます。

〈看護音声入力生成 AI について〉

看護音声入力生成 AI は、看護業務における記録作業の中で、特に改善効果が大いに見込まれる「看護カンファレンス」と「電話サポート」の 2 つの業務において、生成 AI と音声認識 AI を活用して、会話内容の書き起こしからカルテ記録のドラフトの作成、確認後の電子カルテへの取り込みを可能にします。

健康・栄養研究所、大阪国際がんセンター、日本 IBM は、今後も、生成 AI を医療現場に導入し、患者さんや医療関係者にとって役立つ AI サービスを安全に利用できる仕組みを目指していきます。

¹ 日本看護管理学会「[勤務帯別にみた看護記録時間の関連要因](#)」

² 日本看護管理学会「[第 29 回日本看護管理学会学術集会](#)」

IBM、IBM ロゴ、ibm.com、watsonx は、米国やその他の国における International Business Machines Corporation の商標または登録商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> (US)をご覧ください。

< 事業全体に関するお問い合わせ先 >

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 戦略研究支援部企画課 広報チーム

TEL：072-641-9832 / お問い合わせフォーム：<https://www.nibn.go.jp/contact/index.html>

< 開発したシステムに関するお問い合わせ先 >

日本アイ・ビー・エム株式会社 広報 内山

TEL: 03-3808-5120 / e-mail: [pressrel\[at\]jp.ibm.com](mailto:pressrel[at]jp.ibm.com)

[at]を@に置き換えてください。